

アーツコミッション・ヨコハマ(ACY)

令和2年度 事業報告書

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

令和3年3月31日

＜令和 2 年度 総括＞

新型コロナウイルスの感染症が拡大するなかで、アーツコミッション・ヨコハマ(ACY)は、当初計画外であった新規の緊急支援事業(文化芸術創造都市横浜・臨時相談センターや、文化芸術応援プログラム)を担当、実施しました。

また、これまで実施してきた各事業においても、新型コロナウイルスに配慮しつつ、ネットワーク拡張と連携強化、評価・分析による事業改善により、芸術と社会との接続性を高め、創造性を活かして社会の可能性を広げるプログラムを実施。様々な社会的制約のある令和 2 年度でしたが、多様なステークホルダーとの関係性を深め、横浜らしい新たな価値創出を目指した事業を多数実施したことで、アーツコミッション・ヨコハマの次のフェーズを着実に捉えることができました。

コロナ時代の支援内容や成果等について、国内のアーツカウンシルや海外(スコットランド)アーツカウンシルと議論したこと「横浜版アーツカウンシル」とその他のアーツカウンシルのネットワークが広がり、ヨコハマの存在感を高めるとともに、今後の創造環境を支える仕組みづくりや、横浜版アーツカウンシル化への素地づくりに活かしています。一方で、コロナによりアーツマネジメントの課題が顕在化したことにより、今後のアーツコミッションの活動の方向性も見えてきた 1 年でした。

○新型コロナウイルス対応支援の取り組み

新型コロナウイルス感染症拡大でダメージを受けている文化芸術活動の担い手に対し、活動の継続や、新たな展開に関して税理士、行政書士などの専門家と連携して無料の相談窓口を立ち上げました。アーティストにとっては慣れない給付金への申請対応、活動継続のアドバイス、確定申告の講座などを実施しています。また、文化振興課が行う文化芸術応援プログラムの現場対応、サポートを行っています。

○文化芸術創造都市プラットフォーム

新規の取り組みとして、横浜の経済人とクリエイターをつなぐ「ハマの大喜利」を開始。クリエイターが、3 つの企業に対し、合計 11 個の横浜や事業の可能性を広げる提案を行いました。また、「WE BRAND YOKOHAMA」は、環境創造局、よこはま動物園ズーラシア、クリエイターと連携し、環境をテーマに市郊外部を会場として実施、新たなネットワークが生まれています。

○助成事業

アーティストやクリエイターにとって、新たな価値創造につながる魅力的な支援制度となるよう、各助成制度の見直し・改善を行いました。報告会や審査員による中間面談も複数回実施し、活動内容の広がり、深まりをサポート、個人や団体の成長を促しています。また、コロナ時期に安定的に活動ができるように、要綱を変更して前払いできるよう対応しています。

○通常の相談・コーディネート

アーティスト、クリエイター、企業、行政、大学等の相談に対し、アドバイスからマッチング、コンサルティングまで幅広く対応、これまで培ってきた多方面のネットワーク、財団の持つ専門性や総合力を活かし、クリエイティブな活動をしたい人を支援しました。

○創造都市プロモーション

コロナ禍において本番が減る中でも情報発信力を落とさず、むしろ積極的に発信しました。定期的に週 1 回の記事掲載を行う中で、これまで ACY で支援してきたアーティストにコロナ時代における寄稿文を依頼。また、SNS においては、発信数を前年比約 160%とし、アクセス数も同様に伸ばしました。

○関内外 OPEN!

横浜都心臨海部に集積するアーティスト・クリエイターの活動を広く紹介し、市民が気軽にクリエイティブな活動に触れる機会となる「関内外 OPEN!12」は新型コロナウイルスの影響を受けて、オンライン開催へと変更。時宜を踏まえた開催形式と新たなテーマ設定により、変革期の関内地区において、クリエイティブな街づくりとクリエイターの価値の顕在化について、新たな気付きをもたらしました。

1 相談業務

相談件数(令和2年4月～令和3年3月) 総数 135

内容	件数	相手方	件数
紹介／マッチング	11	アート系	62
企画全般	12	クリエイター系／創造産業系	28
助成	35	行政	20
広報	7	一般企業	20
情報提供	35	市民団体	0
移転	11	その他	0
DB登録希望	17	大学	5
視察／調査／取材	7	マスコミ	0
その他	1	オーナー	0
合計	135	合計	135

【クリエイターマッチング事例】



JR 横浜タワーのアート企画向けにアーティストを紹介



LUMINE 横浜店壁面パネルデザインのクリエイターを紹介



横浜信用保証協会イメージキャラクターのデザイナー選定

2 文化芸術創造都市プラットフォーム

平成 30 年度から続ける「WE BRAND YOKOHAMA」は、よこはま動物園ズーラシア(旭区)を舞台として環境をテーマに開催。横浜の魅力の多様性を参加者に伝えるとともに、クリエイティブと動物園の新たな可能性を開きました。また、新規に地元企業とクリエイターの連携を生み出す「ハマの大喜利」をはじめました。

(1)「WE BRAND YOKOHAMA」



文化芸術創造都市横浜の取組みの一環として、企業、行政、クリエイターらが参加し、横浜から未来を描くイノベーターの創出を目指した学びの場を開催。横浜のステークホルダー・クリエイターと共に実施することで、相乗効果を生み出すための触媒機能を担うプラットフォーム形成へ寄与しました。

「WE BRAND YOKOHAMA 『進化の学校』」(全 3 回)

日時:Day1 令和 2 年 11 月 26 日(木)15 時-18 時

Day2 令和 2 年 12 月 9 日(水)10 時-16 時

Day3 令和 2 年 12 月 16 日(水)15 時-18 時

会場:オンラインおよび、よこはま動物園ズーラシア

参加費:15,000 円(全 3 回) ※ズーラシア年間パスポート、Day2 昼食込み

パートナー:よこはま動物園ズーラシア(所管:横浜市環境創造局動物園課 運営:緑の協会)

コンセプト:「生物の進化から、事業と人の進化を学ぶ」地球の未来を培う発想を養う、進化を生み出すイノベーターのための学校。企業において地球環境へのイノベーションを作っている実践者が学び合うはじめての「進化からイノベーションを学ぶ学校」開講

受講者:26 名

<実施体制>

主催:横浜市緑の協会、NOSIGNER、アーツコミッション・ヨコハマ(横浜市芸術文化振興財団)

協力:横浜市、IMAGINE

登壇者:太刀川英輔(NOSIGNER)、村田浩一(よこはま動物園ズーラシア園長)

(2)ハマの大喜利



第1回 開催風景

もっと横浜を魅力的に、もっとアートやデザインを身近にを合言葉に横浜の未来に向けて、人の出会い、業界やセクターを越えた横のつながりを生み出す企画「ハマの大喜利」を横浜の経済人、クリエイター、横浜市芸術文化振興財団が共同で実施しました。

■第1回

世話人：株式会社ありあけ代表取締役社長 堀越隆宏 幹事：菊嶋秀生、岡部祥司
日時：令和2年8月21日(金)14:30～17:00 開催
中継会場：BUKATSUDO(みなとみらい地区)(オフライン 10名、オンライン 23名、計 33名)
テーマ：ありあけが新名所をつくるとしたら
プレゼンター：LPACK.小田桐奨(アーティスト)、スタジオニブロール矢内原充志(アートディレクター)、
パンタグラフ 井上仁行(アニメーター)、BUKATSUDO 川島史、他(お土産部)、
アーツコミッション・ヨコハマ 杉崎栄介

■第2回

世話人：株式会社旭広告社 代表取締役社長 中谷忠宏 幹事：菊嶋秀生、岡部祥司
日時：令和2年11月16日(月)本番 18:00～19:30 交流会 19:30～20:30
会場：旭広告社会議室(オフライン 19名)
テーマ：広告業の力で“関内”を“メディア”に変え、町を元気にするとしたら？
プレゼンター：stgk 伊藤祐基(デザイナー)、エミデザイン橋口阿里子(グラフィックデザイナー)、
about your city 小泉瑛一(建築家)

■第3回

世話人：(株)テレビ神奈川/ (株)tvk コミュニケーションズ 代表取締役社長 熊谷典和
日時：令和3年2月17日 本番 18:00～19:30
会場：オンライン ZOOMのみ(オンライン 20名)
テーマ：誰もが発信者となる時代に、神奈川、横浜の放送ビジネスからする「発信」とは？
プレゼンター：スローレーベル代表 栗栖良依(パラ・クリエイティブプロデューサー/ディレクター)、
河ノ剛史(アートディレクター/ビジュアルデザイナー)、石川由佳子(エクスペリエンスデザイナー)、
セオ商事代表 瀬尾浩二郎、同アシスタントディレクター 今井祐里

3 助成

横浜市では、文化芸術創造都市の一層の推進を図るべく、才能豊かな新進アーティストなど将来の芸術家の芽を育む取組を推進し、ライフステージに応じた次世代育成(クリエイティブ・チルドレン)を幅広く展開しています。また、障害・人種・国籍・宗教・年齢・性別等の様々な違いを越えて創造的に課題解決を図るとともに、誰もが対等な関係に関わり合い、社会や組織に参画するという考え方(クリエイティブ・インクルージョン)をもって、事業を実施しています。これらの趣旨のもとアーツコミッション・ヨコハマ事業として2つの活動助成プログラムを実施しています。

昨年度から名称変更した「U39 アーティスト・フェローシップ」は、横浜から世界に文化芸術を発信する次世代のアーティストを育成し、そのキャリアアップを支援するための助成です。アーティスト活動へ助成を行っています。

「クリエイティブ・インクルージョン活動助成」は、共生社会の実現に向けて、アーティスト、クリエイターによる創造性を活かした社会包摂を試みる多様なプロジェクト(活動)を支援し、そのことが横浜の新たな魅力となり、世界へ発信されていくことを目指すものです。

(1)U39 アーティスト・フェローシップ

応募総数:43件(舞台芸術16件、美術28件) ※うち継続2件

採択件数:6件、交付総額:5,000,000円

募集期間:令和2年3月9日(月)~4月20日(月)

審査会:令和2年5月18日(月)

報告会:令和3年3月15日(月)

審査員:

小野晋司(横浜赤レンガ倉庫1号館館長、横浜市芸術文化振興財団チーフプロデューサー)

木村絵理子(横浜美術館主任学芸員、ヨコハマトリエンナーレ2020企画統括)

住友文彦(アーツ前橋館長、東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科准教授)

藤原徹平(フジワラテッパイアーキテクツラボ代表、横浜国立大学大学院Y-GSA准教授)

山口真樹子(国際舞台芸術交流)

① 荒木 悠 (美術家・映像作家)

1985年生まれ。異文化間のはざまに着目し、それらを取り巻く事象を再現・再演・再話といった手法で編み直す映像インスタレーションを展開している。これまでの主な個展に「RUSH HOUR」(CAI02、2019年)、「ニッポンノミヤゲ」(資生堂ギャラリー、2019年)、「双殻綱:第一幕」(無人島プロダクション、2017年)、「複製神殿」(横浜美術館アートギャラリー1、2016年)など。展覧会の形式にとどまらず、近年では映画祭でも作品が上映されている。

助成額:1,000,000円 サポート内容:アトスペースblanclassを拠点にした作品制作活動、インタビュー記事制作・出稿



② 市原 佐都子 (劇作家・演出家・小説家)

1988年大阪府生まれ福岡県育ち。桜美林大学にて演劇を学び、2011年よりQ始動。人間の行動や身体にまつわる生理、その違和感を独自の言語センスと身体感覚で捉えた劇作、演出を行う。2011年、戯曲『虫』にて第11回AAF戯曲賞受賞。



2017年『毛美子不毛話』が第61回岸田國土戯曲賞最終候補となる。2019年に初の小説集『マミの天使』を出版。同年『バックスの信女 — ホルスタインの雌』をあいちトリエンナーレにて初演。同作にて第64回岸田國土戯曲賞受賞。公益財団法人セゾン文化財団セゾン・フェロー I アーティスト。

助成額：800,000円 サポート内容：KAAT神奈川芸術劇場における演劇作品の再演、インタビュー記事制作・出稿

③ 高山 玲子（アーティスト・俳優） 継続

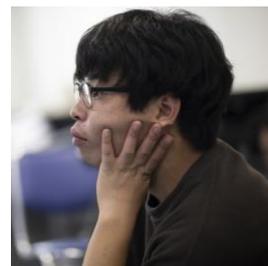
体メンテナンス体操主催。俳優として多くの舞台、映像、パフォーマンス作品に出演する。同時に映像作品、各種メディアを用いたパフォーマンス作品の制作を行う。2019年アート・コレクティブ few phew pur(フュー ヒュー ピュー)を結成。近作は『ゴーストライター』(2018)、『ハイツ高山』(2019)、『祈りの素描』(2020)などを発表。主に境界線(演者／観客・あなた／わたし・あの世／この世)、これらの見えないラインを、可視化・表象することで起こりうる認識のズレなど、人の数だけ答えが違うことをみんなで面白がれることを軸とした制作活動を行なう。



助成額：800,000円 サポート内容：リサーチおよび演劇作品の製作、TPAM2021にて発表

④ 中村 大地(作家、演出家)

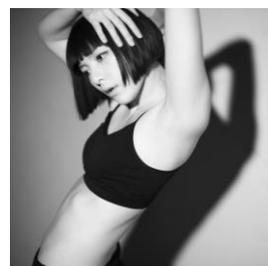
1991年東京都生まれ。東北大学文学部卒。在学中に劇団「屋根裏ハイツ」を旗揚げし、8年間仙台を拠点に活動。2018年より東京に在住。人が生き抜くために必要な「役立つ演劇」を志向する。近作『ここは出口ではない』で第2回人間座「田畑実戯曲賞」を受賞。「利賀演劇人コンクール2019」ではチーフホフ『桜の園』を上演し、観客賞受賞、優秀演出家賞一席となる。その他、シアターコモンズ2020にてリーディングパフォーマンス『正面に気をつける』(作：松原俊太郎)の演出など、劇団外での演出作品も多数。一般社団法人NOOKのメンバーとしても活動。



助成額：800,000円 サポート内容：演劇作品の製作および TPAM2021にて作品上演、インタビュー記事制作・出稿

⑤ ハラサオリ(ダンサー、美術家)

自身の身体を用いたパフォーマンス作品の制作を軸に、サイトスペシフィックな空間/時間における即物的身体の在り方を探求している。近年ではダンサーであった実父との生別と死別を扱ったセルフドキュメンタリー作品「Da Dad Dada」を日独の二カ国で上演。また翌年の2019年にはDance New Airにて「no room」を発表。東京芸術大学デザイン科修士、ベルリン芸術大学舞踊科ソロパフォーマンス専攻修了。2015年度吉野石膏美術振興財団在外研修員、2017年度ポーラ美術振興財団派遣海外研修員。



助成額：800,000円 サポート内容：ダンスベースヨコハマでの滞在制作および実践、インタビュー記事制作・出稿

⑥ 本間 メイ(アーティスト) 継続

Back and Forth Collectiveメンバー。1985年東京都生まれ。2011年チェルシー芸術大学大学院ファインアート科修了。インドネシアと日本の歴史的関係のリサー



チを基点に、社会・政治的な問題や多国間における関係性を考察する映像作品やインスタレーションを発表。近年は公に語られない女性に関する歴史を主に扱う。主な個展に 2020 年「Bodies in Overlooked Pain ー見過ごされた痛みにある体ー」黄金町エリアマネジメントセンター、主なグループ展に 2019 年「Instrumenta #2 MACHINE/MAGIC」National Gallery of Indonesia など。

助成額：800,000 円 サポート内容：リプロダクティブ・ヘルスにまつわるアートブックの製作

(2)クリエイティブ・インクルージョン活動助成

応募総数：25 件 ※うち継続 2 件

採択件数：5 件 交付総額：3,500,000 円

募集期間：令和 2 年 3 月 9 日(月)～4 月 20 日(月)

審査会：令和 2 年 5 月 22 日(金)

中間報告会：令和 2 年 10 月 26 日(月)

報告会：令和 3 年 3 月 8 日(月)

審査員(50 音順)

岡崎智美(横浜市民ギャラリーあざみ野 担当リーダー/主任エデュケーター)

こくぼひろし(ひとしずく株式会社 代表)

曾我部昌史(建築家)

野崎美樹(NPO 法人スローレーベル インクルーシブ・プロジェクトマネージャー)

①渡辺 篤

「同じ月をみた日(アイムヒア プロジェクト)(継続)」

交付額：1,000,000 円

【実施内容】

実施日：令和 3 年 2 月 28 日～3 月 21 日(開催 19 日間) ※2/28～3/5 は公開制作

会場：「Root16 studio」内 Room9、Room10

支援：文化庁 協力：BankART1929、Root16 studio 助成：小笠原敏晶記念財団

来場者数：1500 人

パンフレット発行：タブロイド判(A3 サイズ)、8p、1000 枚印刷

メディア掲載：

読売新聞 令和 2 年 7 月 21 日

朝日新聞 令和 3 年 3 月 16 日夕刊 他多数

内容：美術家渡辺篤氏が、自身の引きこもり経験を経て行っているアイムヒアプロジェクトの取り組みの一つ。新型コロナウイルスの影響で、世界中で「引きこもり」ことが当たり前になった2020年。月の観察/撮影を介して、“ここにいない誰かの事を思うこと”で、孤立にまつわる課題を考える。参加メンバーは、引きこもり当事者や国内外に限らず、約50名。参加者は月の写真を介しての交流だけでなく、定期的に開かれるオンライン交流会(14回開催)でつながりを深めていった。



②加藤 道行

「高齢者パーソナルプログラム「おうち劇場」(新規)」

交付額:400,000円

【実施内容】

実施日:令和2年4月～令和3年2月まで月に一回。

計11回実施

実施場所:認知症高齢者の方の自宅

協力:当該地域のケアマネージャー、協力アーティスト(延べ17名)

共催:ヨコハマコミュニティデザイン・ラボ(おうち劇場報告会について)

参加者:認知症高齢者(対象者)1名、ご家族1名

見学者:延べ33名

報告会:令和3年2月27日(土) YouTube 配信

内容:舞踏家の加藤氏が、認知症の方の自宅に協力アーティスト共に訪問する活動。対象者のお宅を劇場に見立て、歌や踊りといったパフォーマンスを行ったり、参加者とともに表現を楽しむ。双方向の表現の場を即興性を用いて作り出した。認知症の症状の改善が見られたり、本人と家族の関係が良い状況になったり、ご家族の生活の広がりが出たなどの成果が見られた。



③竹本 真紀

「寿町で子どもたちと山車まつりをしたいっ 2020 (継続)」

交付額:700,000円

【実施内容】

①山車展示:令和2年11月10日～11月17日

②アマビエワークショップ:令和2年11月10日～11月13日

③楽器作りワークショップ:令和2年11月14日

会場:①、②、③共に横浜市寿町健康福祉交流センター

④展覧会:令和3年2月6日～2月28日

会場:黄金町アートブックバザール他

協力:

<ワークショップ>山陽印刷株式会社

<報告展示>公益財団法人横浜市寿町健康福祉交流センター、山陽印刷株式会社、NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター

参加者:

展示:寿町健康福祉交流センター910名

ワークショップ参加者40名

黄金町報告展示ガイドブック持参者160名その他、通りがかりの方々多数

メディア掲載:タウンニュース中区西区版令和2年11月26日、タウンニュース中区西区版令和3年2月4日

内容:昨年度からの継続事業。美術家の竹本真紀が寿町の子どもたち、地域住民と共に、山車づくりを行う。令和2年度はコロナの影響で山車を曳いて練り歩くことができなかつたため、横浜市寿町健康福祉交流センターを会場に、アマビエづくり、楽器作りのワークショップを行った。アマビエちゃんは、寿町健康福祉交流センターのエントランスに令和3年1月末まで展示された。併せて、アーティスト大谷能生氏に依頼し、地区の保育園で続いていることぶき太鼓に合わせて、おはやしを作成した。令和3年2月に黄金町で行われた展覧会では、映像やおはやし、アマビエなどを展示し、多くの人に発表し、好評を得た。

みんなでアマビエちゃんに
願いをこめよう!
参加者募集!
誰の病に
強いと言われていた
アマビエちゃんです。
おみこしのように
かつがずに、
人形などをのせた
ものをくままつり
を山車(だし)まつり
と言います。
★山車展示
日時:2020年11月10日(火)～11月17日(火)
9時～17時
場所:横浜市寿町健康福祉交流センター 1Fラウンジ
★アマビエちゃんにウロコをはろう。
日時:2020年11月10日(火)～11月13日(金)
13時30分～16時30分 5名ずつ入れ替え制
場所:横浜市寿町健康福祉交流センター 作業室
★山車まつりで使ってつくり楽器をつくろう
日時:2020年11月14日(土) 12日(木)13:30～16:30
も行います。
10時～13時 5名ずつ入れ替え制
場所:横浜市寿町健康福祉交流センター 作業室
f 寿町で子どもたちと山車まつりをしたいっ
【主催】寿町山車まつり実行委員会

④特定非営利活動法人 心魂プロジェクト（申請代表：寺田真実）

「病児者・障がい児者・ご家族・関係者へのオンライン・パフォーマンスデリバリー（新規）」

交付額：700,000円

【実施内容】

実施日：令和2年度活動対象期間通して、ほぼ毎日（オンラインプログラム配信）

実施場所：オンライン（主に、Facebook）

助成（ACY以外）：日本財団、一般社団法人戸沢暢美財団、
ゴールドマン・サックス 緊急子ども支援基金 第2フェーズ、MS&AD ゆにぞんスマイル

番組数：351番組（令和2年3月～令和3年2月末）

再生回数：134,784回（令和2年3月～令和3年2月末）

※本助成決定前の実績も含む。

登録アカウント数（1アカウントで2～4名）

1, 無料限定公開ページ 346アカウント

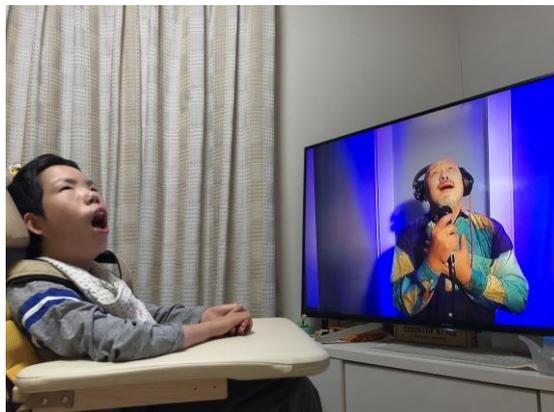
2, 有料限定公開ページ 142アカウント

3, 無料一般公開 3616アカウント

配信する側への参加、約100名（取り組みの違いによるカウントの重複あり）

広報実績：タウンニュース11/5号、令和3年1月25日付け東京新聞朝刊

内容：病児、障がい児、またその家族に向けたオンライン配信プログラム。劇団四季出身の代表の寺田氏と共同代表の有永氏が、ミュージカル俳優の仲間と協力して、コロナ禍の中で「各家庭を孤立化させない、心の命を守る」ことを目的に、多様な番組を配信した。その活動を通して・前を向ききっかけを作る・自粛生活でも外の空気、未来を感じられる企画・人との繋がりを感知される時間・安心し想いを吐き出せるコミュニティ作りが実現できた。



⑤LITTLE ARTISTS LEAGUE（申請代表：望月実音子）「双方向性コミュニケーションアートで多文化の心をつなぐ「やさしさの花」アートリレー（新規）」

交付額：700,000円

【実施内容】

実施期間：令和2年9月～12月（オンラインギャラリーでの作品公募期間）

実施場所：

オンラインギャラリー（下記URL）

リアル：横浜市立青木小学校（神奈川区）、神奈川区
内自宅、臨港パーク（西区）、ポピンズナーサリースクール
みなとみらい（西区）、横浜ユニオン教会（中区）、横
浜市立太尾小学校（港北区）

協力：横浜市立青木小学校長 角野公利先生、BODY SYNERGY、ポピンズナーサリースクール

動画視聴回数：855回/ワークショップ参加者/エピソード寄稿者：129人

販売実績：「やさしさの花」アートキットをオンラインストアにて販売（<https://shoplal.theshop.jp/items/35044991>）

自主媒体：LITTLE ARTISTS LEAGUEウェブサイト：

<https://www.littleartistsleague.org/events/flowerofkindness>

広報実績：NHKひるまえほっと、神奈川新聞、小学館HugKum、YKK PR誌 Neighbor Vol.562、ヨコハマ・アートナビ、創造都市横浜、Toyota情報誌 Harmony（予定）



内容:LITTLE ARTIST LEAGUは、平成28年から活動をするバイリンガルのアーティストママ3人が率いるアート団体。子どもたちの「やさしい気持ち」を花に表現した、コミュニケーションアートを目指して、WEBページ上で、双方向性のある取り組みを計画した。「やさしさ」とはなにか、どのようにには何できるのかといったことをインスパイアする動画を3本作成して、HP上で公開。また、横浜市立青木小学校の「やさしい心の郵便箱」の取り組みとコラボレートし、やさしさのエピソードをオンラインギャラリーやインスタグラムで紹介した。社会の状況を見て、オンラインだけでなくリアルのワークショップも数回開催。12月1日にはオンラインギャラリーに投稿された映像、画像をコレクションした集大成の動画を制作公開。日本、アメリカ、ロシア、韓国、香港、イタリア、フィンランド、ドイツ、コロンビア、カナダの国籍を持つ方々が参加した。

(3)アーツコミッション・ヨコハマ助成報告会

下記2つの助成制度について最終報告会は、公開で実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴い、ビデオ会議システムにて報告会としました。報告会は、各アーティストや活動主催者のプレゼンテーションを行う第1部、審査員講評を行う第2部の2部構成で実施しました。

(ア) 令和2年度U39アーティスト・フェロシップ報告会

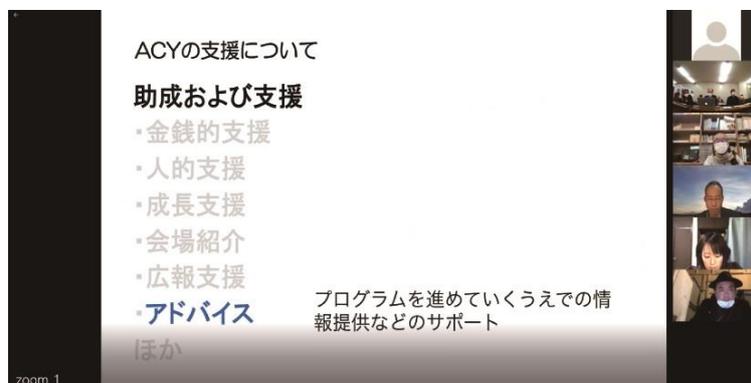
日時：令和3年3月15日(月)16:00~19:30

会場：横浜市芸術文化振興財団事務局、他(オンラインビデオ会議で実施)

(イ) 令和2年度クリエイティブ・インクルージョン活動助成報告会

日時：令和3年3月8日(月)14:00~17:00

会場：横浜市芸術文化振興財団事務局、他(オンラインビデオ会議で実施)



4 創造都市プロモーション

文化芸術創造都市・横浜の取り組みについてアートやデザインのファンに向けて広く周知するため、横浜市都心部における諸活動を紹介するプロモーション活動を行う事業。イベント等の催事のほか、創造都市政策のもとに横浜に集った人材やプロジェクトなどを、ウェブサイト(SNS 含む)を運用して発信しました。

(1) WEB マガジン『創造都市横浜』

創造都市横浜の魅力を紹介するメディア。Facebook、Twitter 等の SNS と連動し、取材・執筆を基本に「読みもの」として情報発信を行いました。

掲載記事:49 本、Facebook 165 本

Twitter 165 本

編集方針:アート、産業、まちづくりなど、広くクリエイティブな活動を取り上げる。イベント情報に限らず、日常的な取り組みや中長期的なプロジェクトなども読み物としてストーリー性を加えて紹介。クリエイティブな視点で横浜の人や街を取材し、①特集、②ひと、③モノ、④コト、⑤街、⑥食、⑦コラム、⑧イベントの categories を設け、記事を作成。



①アクセス数 (URL : yokohama-sozokaiwai.jp 内)

月	アクセス数	月	アクセス数
4月	32,401	10月	57,166
5月	60,574	11月	39,556
6月	39,952	12月	40,769
7月	57,905	1月	29,026
8月	49,268	2月	34,485
9月	43,397	3月	37,559

合計 484,499 (前年 1,863,343) ※令和2年度よりアクセス解析方法が変更されました。

②Facebook いいね数

月	いいね数	月	いいね数
4月	20,609	10月	20,489
5月	20,600	11月	20,503
6月	20,592	12月	20,484
7月	20,561	1月	20,473
8月	20,545	2月	20,478
9月	20,532	3月	20,493

③Twitter フォロワー数

月	フォロワー数	月	フォロワー数
4月	8,080	10月	8,184
5月	8,101	11月	8,226
6月	8,118	12月	8,226
7月	8,132	1月	8,252
8月	8,133	2月	8,269
9月	8,166	3月	8,314

(2) 横浜市クリエイターデータベースの運営

ACYの活動の成果として、都心臨海部に集積するアーティストやクリエイターの力を市内の事業に繋ぎ、さらに横浜の魅力を生み出し発信していくことを趣旨に、グラフィックやWEB等のデザインに関わるクリエイターのプロモーションのための検索・紹介機能に優れたサイト「横浜市クリエイターデータベース」を平成28年度に立ち上げ、運用を行っています。

【概要】

名称：横浜市クリエイターデータベース

URL <https://acy.yafjp.org/creatorsdatabase/>

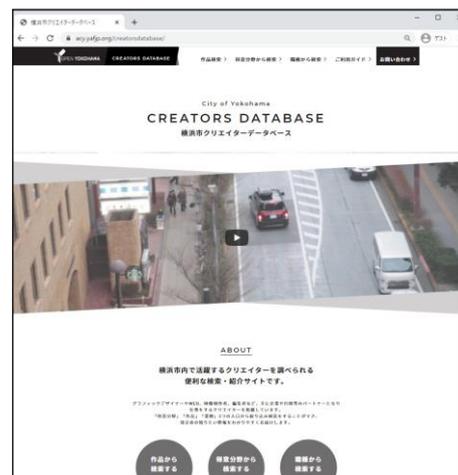
内容：クリエイターの制作事例、得意分野提案、会社概要を紹介するページで構成されたサイト

登録者数：57組（うち今年度6組、前年51組）

登録者：グラフィック、WEB、映像、写真、イラスト等、クライアントワークを行っているデザイナー、もしくはその方が代表者を務める法人等。

利用者想定：企業、行政各部署、NPO等

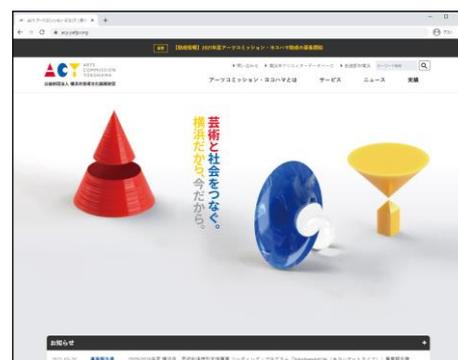
令和2年度アクセス数 208,879(前年 253,430) ※令和2年度よりアクセス解析方法が変更されました。



(3) アーツコミッション・ヨコハマ ウェブサイト改修

経年変化するウェブサイトのユーザビリティに対応するため2014年から運用してきたウェブサイトを改修。

様々なデバイスに表示対応するためのレスポンス化やこれまで実施した主催及び助成事業のデータベース化を図り、実績の発信力を高めた。



5 関内外 OPEN! 12

これまでは、都心臨海部に集積したアーティストやクリエイターが、クリエイティブ好きの市民に向けてスタジオを開き、ワークショップやトークを共に楽しむイベントでしたが、今年は新型コロナウイルス感染症を受けて、オンラインでの実施としました。

クリエイターを、デザインや建築といったジャンルではなく、クリエイティブを何で発揮したかという視点で、教育、福祉、医療、防災、環境、子育てなどといった社会的な価値における切り口で紹介。また、横浜のまちづくりの次世代キーマンがゲスト出演し、今後の関内、関外におけるクリエイターの可能性について語っていただきました。

日程：令和2年11月3日（火・祝）スタート

会場：オンラインプラットフォームにて参加クリエイターが制作したyoutube動画を公開。

参加スタジオ数：60組

公開映像数：96本（うちディレクター企画5本）

再生回数：6,375回

URL：<https://www.kannaigaiopen.jp/>



【スタジオ等の一覧】(順不同)

	スタジオ名		スタジオ名
1	Peatix	31	はまぐらし編集部
2	bear	32	認定 NPO 法人 あっちこっち
3	abouto your city	33	設計室
4	さくらハウス	34	コーヒータロー
5	株式会社セオ商事	35	無巖庵
6	ポイズ	36	横浜シネマ・ジャック&ベティ
7	studio Irodori 建築設計事務所	37	みかんぐみ
8	本のも・クシュラ	38	Archishop Library&Café+飯田善彦建築工房
9	mass×mass 関内フューチャーセンター	39	BUKATSUDOYOGABU
10	相澤事務所	40	Kosha33 ライフデザインラボ
11	とくにわ	41	otonomori
12	asamicro	42	アーツコミッション・ヨコハマ
13	I.TOON Ltd.	43	NOGAN
14	ike atlier/art port	44	THE DARKROOM
15	ごとう画室	45	ウミネココ
16	ゲンジアーキ/源+古川	46	横浜シネマリン
17	favoris inc.	47	ヨコハマ芸術不動産推進機構準備委員会
18	さくら works 関内	48	コトラボ合同会社
19	SITE BAY YOKOHAMA	49	ライトハウス (岩間正明)
20	トビヲちゃんカンパニー	50	パンタグラフ
21	似て非 works	51	プラプラ
22	plaplax	52	NOSIGNER
23	中瀬俊介	53	廃材標本 KU アーキラボ
24	ピクニックルーム/関内まりづくり振興会	54	八板建築設計事務所
25	アトリエ・モビル	55	14product
26	象の鼻テラス	56	映像グループローポジション
27	明蓬館高校 横浜・関内 SNEC	57	水野歌
28	アートスペース「と」	58	G INNOVATION HUB YOKOHAMA
29	アンイースタジオ/Art n' English Studio	59	オンデザインパートナーズ
30	Gallery+Sushi 三郎寿司あまね	60	Studio NIBROLL&Lab.

6 ドックヤードガーデン活用事業(施設名:BUKATSUDO)

ドックヤードガーデン活用事業運営協議会を通じて、参加 5 社（横浜市、三菱地所（株）、三菱地所プロパティマネジメント（株）、（株）リビタ、当財団）で協力し運営しています。

“大人のためのシェアプレイス”をコンセプトに作られた施設は、6 年を経過しみなとみらい地区で働く人々の心をつかみ、新たなコミュニティ拠点へと成長しています。コロナ禍においては、みなとみらいの施設が時短や閉めるなかで、継続して施設を運営し、ステイホーム中の住民などの憩いの場となりました。町のソフトインフラとしての役割を担うようになっていきます。

ACY 協力事業

「アートコレクター講座イベントービジネスと人生を楽しく深めるアートとの出会い方」

アートを身近に楽しめる街・横浜の実現を目指して、はじめてのコレクター講座を実施しました。

[実施内容]

日時:令和 2 年 11 月 14 日(土)14:00~15:30

会場:オンライン

講師:柴山哲治氏(株式会社 AG ホールディングズ代表取締役)

主催:BUKATSUDO

協力:アーツコミッション・ヨコハマ

7 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 (TPAM in Yokohama 2021)

今年で開催から 26 年目を迎えるアジアで最も古い国際的な舞台芸術のプラットフォーム。PARC（国際舞台芸術交流センター）を事務局に、当財団、公益財団法人神奈川芸術文化財団の 3 者が実行委員会として主催し、組織の垣根を越え、都心臨海部の創造界限を中心に多様な文化施設が協働しました。

来日に制限がかかっているため、海外からの来場はありませんでしたが、参加登録は 917 名（うち海外 366 名）と前年 962 名より少し下がったものの、安定したプラットフォームとしての存在感を示しました。公演、ミーティング、全てのプログラムにオンラインの体制を構築し、会期後は「公文協シアターアーカイブス」において、一部プログラムを公開しました（一部無料で視聴可）。



DULL-COLORED POP / 福島三部作 第一部『1961年：夜に昇る太陽』



アイサ・ホクソン / Manila Zoo (ワーク・イン・パンデミック)



ホー・ツーニェン（YCAM とのコラボレーションによる）／
Voice of Void（ワーク・イン・プログレス）



TPAM エクスチェンジ
グループミーティング

会期：令和 3 年 2 月 6 日～14 日
 会場：KAAT 神奈川芸術劇場、BankART Temporary（ヨコハマ創造都市センター）、
 横浜赤レンガ倉庫 1 号館ほか
 公演数：6 演目 105 公演（公演プログラム「TPAM ディレクション」）
 フリンジ：56 団体・40 会場・198 公演（オンライン含む）
 総来場者数：17,345 名（来場・オンライン合計）
 海外からの参加国数：45 カ国
 登録者＋アーティスト：917 名（うち日本 551 名、海外 366 名）

8 YES！文化芸術創造都市横浜・臨時相談センター

YES（文化芸術創造都市横浜・臨時相談センター）は、文化芸術活動の担い手のための“対話型”オンライン相談窓口。アーティストやクリエイター、文化拠点の運営者、舞台技術者やイベント運営の制作者、学校の文化系部活動などを対象に文化芸術活動の継続と再開に向けたアドバイスを行いました。文化芸術活動の実務経験者や国家資格を有する税理士や弁護士、社労士、行政書士等が相談員となり、現状の悩みを分かち、次に向けて背中を押す伴走者として、ともに課題に向き合いました。

実施期間：令和 2 年 5 月 20 日～令和 3 年 3 月 31 日
 相談申込数 158 件、相談件数 130 件、キャンセル 28 件
 ＊詳細報告書は別紙参照

9 その他

アーツコミッション・ヨコハマによるクリエイター活動実態調査

アンケート回答期間：令和 2 年 12 月 25 日～令和 3 年 1 月 13 日
 手法：これまで ACY の具体的な支援プログラム等を受けたクリエイター等へのアンケート調査
 送付数：138
 回答数：91（回答率 66%）
 ＊詳細報告書は別紙参照

令和2年度 アーツミッション・ヨコハマ

ヨコハマ創造産業振興助成事業

事業報告書

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

令和3年3月31日

横浜市文化観光局が掲げる文化芸術創造都市・横浜施策に基づき、「ヨコハマ創造産業振興助成」「クリエイターのための事務所等開設支援助成」の公募を行いました。

1. ヨコハマ創造産業振興助成

ヨコハマ創造産業振興助成は、クリエイターが企業や大学等と連携をして新たなサービスや商品などを開発する取組を支援するための助成において、市内に優れた中小企業等が多数存在することを背景に、クリエイターのアイデアと企業や大学等の技術力とのかけあわせで新たなビジネスが生まれることを期待し、横浜ならではのデザイン・ものづくりが国内外に発信されることを支援しました。新型コロナウイルスの状況を考慮して、二次募集を行いました。

(1) 新商品・サービス開発部門

応募総数：8 件（一次 5 件、二次 3 件）

採択件数：4 件 交付総額：4,000,000 円

募集期間：2020 年 3 月 9 日（月）～4 月 20 日（月）【一次】

2020 年 6 月 26 日（金）～7 月 17 日（金）【二次】

審査会：一次 2020 年 5 月 28 日（木）、二次 2020 年 7 月 22 日（水）

審査員：

井手美由樹（中小企業診断士）

鈴木淳（台東デザイナーズビレッジ 村長／株式会社ソーシャルデザイン研究所 代表取締役）

田中浩也（慶應義塾大学 SFC 環境情報学部教授）

【採択事業】

① 特定非営利活動法人 スローレーベル（代表：理事長 栗栖良依）

日本初・ソーシャルサーカス教室開校に向けた準備事業 交付額：1,800,000 円

【実施内容】

サーカスのエクササイズを通じて、障害者、ひきこもりなど社会に出ることに課題のある方を対象に、半年間で協調性、ストレス耐性、創造力、コミュニケーション能力、危機管理能力等、社会で生き抜く上で必要なソーシャルスキルを身につける教室を開校する（2021 年秋予定）ための準備事業。当初の予定では、モニター 20 名を募集して実施、評価検証をする予定であったが、新型コロナウイルスの影響で集まることができなかつたため、オンラインプログラムへと変更した。また、DVD キットの開発、その宣伝などを全国に向けて行った。

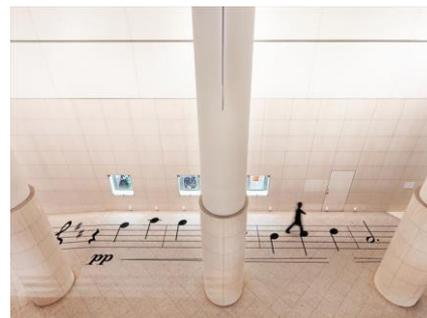


② NOSIGNER 株式会社（代表：太刀川英輔）

LIFE COIN STICKER 交付額：1,000,000 円

【実施内容】

感染症を予防するために適切な距離感が実際どの程度のものなのか、一般の方々に楽しみながら体感していただくことを目的に、様々な文化施設、商業施設に、楽しめるソーシャルディスタンスのステッカーを配置し、クリエイティブを通じて楽しみながら次の感染症の波に備える仕組み。LIFECOIN ステッカーは、テレビゲームなどで馴染みのあるコインのビジュアルを用いて、多くの人に楽しみながら「ソーシャルディスタンス」の意義を理解し実行するムーブメントを広げるために実施、各地で実践された。また、そこから派生した「SOCIAL HARMONY」を横浜みなとみらいホールの玄関前に設置、コロナ時代のサインの在り方を社会に提案、様々なメディアに取り上げられた。



③ あしおとでつながろう！プロジェクト(代表:おどるなつこ)
「デジタルギフト あしおとの輪」開発 交付額:800,000円

【実施内容】

共生教育及びタップダンスコミュニケーションプログラム「あしおとの輪」へニーズが高まる中、ELECTROGIC との共同開発でオンライン版を開発。実施にあたり、サービスを提供する「あしおとでつながろう!」、サービスを提供される「学校や福祉施設」に加えて、この体験をギフトとしてプレゼントする「第三者」が資金提供者となる「デジタルギフト」という仕組みをビジネスモデル化していく。実施を希望する全国の福祉施設やギフトを送る企業等とのネットワーク、商品の開発と販売、実験事業、ホームページや営業ツールの開発、これらを実施する法人の設立を行った。



④ Gallery+Sushi 三郎寿司あまね (代表:田口竜太郎)
あまねオンラインギャラリー開設 交付額:400,000円

【実施内容】

元町に拠点を構えるギャラリーが実施するもので、新型コロナウイルスの感染拡大で活動の場を失っているアーティスト達の支援として、コロナ禍でもオンラインで発信、作品販売が出来る場所を作ることで、未来の横浜のアートシーンへと繋いでいくプロジェクト。緊急事態宣言後は、横浜元町の実店舗とオンラインギャラリーを平行して展開し、数々の展覧会をオンオフ問わずに横浜からのアートを発信した。



2. クリエイターのための事務所等開設支援助成

応募総数：1件（都度申請受付、都度審査）

採択件数：1件

募集期間：令和2年4月1日から令和3年1月15日（金）

審査会：令和3年1月29日（金）

審査員：

井出 美由樹(中小企業診断士／ターンアラウンドマネージャー)

西田 司(建築家／株式会社オンデザインパートナーズ代表)

藤崎 信裕(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団経営企画室室長)

交付先：トビラ株式会社 事業内容：イベント企画・運営、カフェ運営

交付金額：2,000,000円

令和 2 年度 英国ホストタウン交流事業

事業報告書

オリンピック・パラリンピックの開催年として、横浜市の英国ホストタウン交流事業をブリティッシュ・カウンシルと連携し実施を予定するも、新型コロナウイルスの影響を受けて、来日やイベント実施が困難のためオンラインでの交流を行いました。

横浜ースコットランド文化交流プログラム 2020 “Yokohama-Scotland Creative Dialogue”

新型コロナウイルスの地球規模の感染拡大をうけて変化した世界において、私達は人間性を回復する上でも文化産業を衰退させないためにも、あらためて文化芸術施策の重要性を再確認し、今後の可能性を模索していく時期にあります。そこで本プログラムは、日英両国の活動を通じて学びを深め、国際的な連携を強化することを目的に実施。第1回目を「文化芸術支援」をテーマに、日本の文化支援機関との連携で、第1回目を「フェスティバル」をテーマに、横浜の舞台芸術関係者との連携で開催しました。

vol.1 クリエイティブ・スコットランド Lorna Duguid 氏を招いた 日英文化芸術支援機関の意見交換会について

コロナ時代における文化芸術支援について、スコットランドで同支援を実践するクリエイティブ・スコットランドのローナ・ダギッド氏を迎えて、日本の各自治体や国のアーツカウンシル系組織を交えて意見交換会を行いました。両国の現状を情報交換し、また活発な質疑応答が行われ、今後の文化芸術支援の在り方を広く、深く議論する会となりました。

【内容】

●DAY1 クリエイティブ・スコットランドによる Covid-19 に関する緊急支援策について
日時：2020年11月19日（木） 18:00～
会場：オンライン ZOOM ミーティング
ゲスト：Lorna Duguid（クリエイティブ・スコットランド）

●Day2 クリエイティブ・スコットランドによる通常支援について
日時：2020年11月20日（金） 18:00～
会場：オンライン ZOOM ミーティング
ゲスト：Lorna Duguid（クリエイティブ・スコットランド）

開催方法：オンライン ZOOM にて開催（日英同時通訳、英日逐次通訳）

参加者：アーツカウンシル新潟、金沢芸術創造財団、独立行政法人日本芸術文化振興会
文化庁地域文化創生本部、アーツカウンシル東京、神奈川芸術文化財団／KAAT 神奈川芸術劇場、公益財団法人静岡市文化振興財団、名古屋市文化施策推進体制準備委員会、大阪アーツカウンシル、沖縄県文化振興会、公益財団法人京都市芸術文化協会 / 京都芸術センター、横浜市創造都市推進課、主催者から 35 名が参加。

主催：アーツコミッション・ヨコハマ（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）
ブリティッシュ・カウンシル

協力：アーツカウンシル・ネットワークミーティング事務局

【プロフィール】

ローナ・ダギッド Lorna Duguid Multi-artform Manager Creative Scotland

クリエイティブ・スコットランドのマルチ・アートフォーム・マネージャー。前職は自身で設立したプロダクション・エージェンシー、ALLOFTHEABOVEで活動。創作活動に携わるアーティストを支援、育成、養成するため、運営・戦略面で助言を行うほかネットワーク構築、資金調達、プロモーション支援をも提供している。20年以上にわたってさまざまな形で劇場とパフォーマンスに関わる仕事をした経験があり、そのなかには、グラスゴー・シチズンズシアターのマーケティング・マネージャーとしての7年、ダンディー・レップシアターのエグゼクティブ・ディレクターとしての4年が含まれる。クリエイティブ・スコットランドでは、シアター・チームに属してスコットランド内外の巡回公演を主に担当するほか、エジンバラの各フェスティバルにおけるスコットランド政府 EXPO ファンドの交付や、クリエイティブ・スコットランド、ブリティッシュ・カウンシル、フェスティバルズ・エジンバラが共同で行う世界のアートマネージャーのための育成プログラム「モメンタム」の実施にも携わっている。

クリエイティブ・スコットランド

スコットランドに住み、働き、あるいはスコットランドを訪れるすべての人々のために、スコットランド全土で芸術・映画・創造産業を支援する公共団体。優れたアイデアの創出と実現を支援することにより、個人や団体がスコットランドの芸術・映画・創造産業で働く、あるいは経験することを可能にしている。クリエイティブ・スコットランドはスコットランド政府と英国国営宝くじから提供された資金を、助成金として交付している。

Website: <http://www.creativescotland.com>

vol. 2 ”フェスティバルシティ” エジンバラとの意見交換会

スコットランドの首都エジンバラは、多数の芸術祭が開催、世界有数のフェスティバルシティとして世界的に認知され、それが都市の観光、産業、まちづくりにおいて大きな役割を担っています。エジンバラは、どのようにして世界有数のフェスティバル都市になったのか、エジンバラの特徴、発展の鍵として、11の芸術祭をまとめるアンブレラ組織” Festivals Edinburgh” の存在があります。

COVID-19の時代において世界的に環境が変わる中で、国際交流、フェスティバルのあり方が変化しつつあるなか、英国の成功事例を2名の専門家を招きプレゼンテーションしていただきました。その後、横浜がアジアの舞台芸術ハブとして機能し、ユニークな出会いを生み出す都市として国際的に支持され、民主的で多様で新しい表現の場、舞台芸術を生業とする人が持続可能である場をどのように生み出すかを関係によって議論しました。

【内容】

●DAY1 「Festivals Edinburgh から学び、実践する芸術祭の戦略」

日時：2021年1月28日（木）18:00～

会場：オンライン ZOOM ミーティング

ゲスト：James McVeigh

Head of Marketing & Innovation Festivals Edinburgh

終了後に日本側メンバーによるフィードバック

【プロフィール】



James McVeigh
Head of Marketing and Innovation
Festivals Edinburgh



ジェームズ・マクヴェイ
フェスティバルズ・エジンバラ マーケティング・イノベーション部長

アイルランドに生まれ育ち、4歳のとき、9人の家族と古いモーリス・マイナーに乗ってフェスティバルに初めて参加。その結果、フェスティバルが大好きに、車での旅行が大嫌いになる。ソールズベリー国際芸術祭、ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団などでシニアマネージメントを経験し、アーツ・カウンシル・イングランドでは2,500万ポンドの地域支援の責任者を務めた後、フェスティバルズ・エジンバラ初のマーケティング・イノベーション部長に就任。文化的インフラのキー要素としてのフェスティバルへの関心から、フェスティバルをめぐる政策の文脈を展開するほか、フェスティバル間の国際的パートナーシップ構築に取り組み、「ヨーロッパ・フェスティバル・リサーチ・プログラム」などを実施している。ユニークなコラボレーションによって組織されているフェスティバルズ・エジンバラ- 現在25,000組を超える国際水準のアーティスト、1,000以上の公式メディア、4,500万人の観客、スコットランド経済への3億3,800万ポンド以上の貢献を誇る - の現場では、世界を主導するフェスティバル・シティとしてのエジンバラの位置づけを保ちつつ成長させる役割を担っている。また、ユネスコ文学都市トラスト評議員、ニュー・メディア・スコットランド理事を務める。

●DAY2「エジンバラ・FRINGE・フェスティバルはどのように運営されているのか」

日時：2021年1月29日（金）18:00～

会場：オンライン ZOOM ミーティング

ゲスト：Lyndsey Jackson

Deputy Chief Executive Edinburgh Festival Fringe Society

終了後に日本側メンバーによるフィードバック

ゲストプロフィール



Lyndsey Jackson
Deputy Chief Executive
Edinburgh Festival Fringe Society



リンゼー・ジャクソン
エジンバラ・フェスティバル・FRINGE・ソサエティ 副最高経営責任者

リンゼー・ジャクソンは、シニア・アートアドミニストレーターやライブイベントプロデューサーとして活動する傍ら、現在エジンバラ・フェスティバル・FRINGE・ソサエティの副最高経営責任者を務める。エジンバラ・フェスティバル・FRINGEは、世界最大のアートフェスティバルで、アーティストや制作者が国際的なステージで自身の才能を発展させ、発表する最高のプラットフォームである。リンゼーは、最高経営責任者、理事会、幹部役員陣そしてFRINGE・ソサエティのスタッフを、モチベーションを与えるリーダーシップと明確な戦略的指揮を通して支え、ソサエティのビジョン・目的・目標を実践し、事業継続、ガバナンスと戦略立案、デジタル革新と商用化、そしてホストシティにおいてフェスティバルの場を支える教育支援プログラムの発展を牽引する。

開催方法：オンライン ZOOM にて開催（日英同時通訳、英日逐次通訳）

参加者：主催に加え、KAAT 神奈川芸術劇場、横浜赤レンガ倉庫 1 号館、横浜市文化プログラム部、文化芸術創造都市推進部、Dance BASE、若葉町ウオーフ、Code for YOKOHAMA、横浜トリエンナーレ組織委員会、主催者等、42 名が参加

主催：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、ブリティッシュ・カウンシル
PARC（国際舞台芸術交流センター）